

第6回 菱野団地再生計画推進協議会

議事要旨

日時：令和6年2月22日（木）13時30分～15時15分

場所：瀬戸市役所 東庁舎4階 大会議室

1. 開会

- あいさつ
- 委員紹介
- 資料確認

2. 令和5年度の活動状況等（資料1）

○事務局からの資料説明

- ・資料1-1、参考資料1、参考資料2を用いて、令和5年度活動状況について説明した。
- ・資料1-2を用いて、みんなの会より令和6年度の予定について説明がなされた。

○質問・意見交換等

委員：住民バスの運転手の高齢化対策について、いきなり運転手をお願いするのは難しいと思うので、乗車体験会等を実施して、まずは雰囲気や走るルートを現役世代の方に見ていただいたり、相談事を聞いたりする会を設けるのはどうか。こういった機会があると、応募に前向きな方が増えてくると思う。

会長：住民バスは団地にとって非常に重要なものだが、現役世代の方は乗る機会が少ないと思うので、そういった体験会を通じて、身近なものになるとよいと思う。他にご意見はありますか。

オブザーバー：住民バスは、今年で7年目になるが、運転手の高齢化とともに、利用者の高齢化もみられる。運転手の確保について、現在、運転手に応募いただいた方には適正診断を受けていただいているが、まずは団地の高齢者の方向けに、交通安全の意味合いも込めて、適正診断の受診を呼びかけるのはどうか。さらに受けた方を運転手予備軍として把握しておくのはどうか。その方たちが定年を迎えたタイミングで、お声掛けをして、乗車体験に参加いただく。そうすると、住民バスの運転手が定年後の新たな活躍の場となるのではないかと。

会長：今とても良いシステムが出来ているので、これを次につないでいくために、ぜひ参考にいただければと思います。住民バスの事務局からはいかがでしょう。

委員：このような発想はなく、とても良いと感じた。やはり地域の方は、事故をととても心配されていたり、免許返納に迫られている状況の中で、そういった取り組みはとても有効だと思

う。また、現在有償ボランティアという形を取っているが、資金不足に悩まされており、こちらについても対策を考えていきたい。

委員：NPO法人まごころにて、2月26日に元気高齢者の担い手講座を開催するが、その際にNPO法人移動ネットあいちの方に講演いただく予定でいる。その団体は福祉有償運送を担っており、運転講習に力を入れており、内容も面白いので、依頼すると協力いただけると思う。また、瀬戸市全体で、高齢者の移動問題が深刻になっており、団地内は住民バスがあるが、団地外に買い物に行ったりする際は大変だと思う。ぜひ移動支援について、力を入れていただきたいと思う。

委員：団地内の住民バスはルートが決まっており、自動運転に向いているのではないかと。団地での取り組みがモデルケースになれば、様々なメリットが生まれてくると思う。また、運転手の担い手問題の解決にもつながると思う。

会長：自動運転もかなり進化しており、春日井や日進、常滑等でも実証実験が行われている。私も実際に乗車したことがあるが、かなり進歩しているため、近隣の事例を参考に進めていければと思います。

3. 再生計画のプロジェクト進捗状況・予定（資料2）

○事務局からの資料説明

- ・資料2を用いて、再生に向けた先行プロジェクトの取り組み状況及び、再生に向けた中・長期計画の取り組み予定について説明した。
- ・令和8年度の分離型小中一貫校の開校に向けて、詳細の説明がされた。

○質問・意見交換等

委員：新設の体育館は防災利用可とのことだが、光陵中学校にも体育館があり、災害時の避難所に指定されているが、鍵の管理等は各自治会で行っているところもある。こういった取扱いの部分も含め、市の防災関係課を交えて、施設の利用方法について話し合える場が設けられるとありがたい。

委員：みんなの会としても、地域の立場として、見守り育んでいく立場として関わっていききたいが、どのように関わるのが良いか迷っている。こどもが中心となり、次に保護者、そして地域の人間となるが、いきなり地域住民から学校統合について意見を出してよいものかと思うところもある。実際利用する子どもや保護者と足並みを揃えていききたいが、具体的にどういった関わり方がよいか教えていただきたい。

会長：大学側としても、小中学生と団地の未来について考えていきたいと思うが、ちょうど再編のプロセスの途中のため、どういう形で活動を進めていけばよいか悩んでいるところである。各小中学校の校長先生にお話しするか、再編に関わるため、事務局に話すのがよいか。

教育政策課：地域との関わりでいうと、学校と地域をつなぐ場としてコミュニティスクールを各台の学校に配置しており、再編に伴い、コミュニティスクールも1つになるため、窓口となり得るのではないかと思う。また、現時点では、学校活動への関わり方については、各校の校長先生が判断することとなっている。そういった声があれば、校長先生へご相談いただき

たい。今回いただいた意見については、教育委員会にて情報提供を行い、今後の地域との連携については、引き続き検討を行っていきたい。

委員：こどものアンケート結果が基本方針の基になっている部分は非常に良いと感じた。我々は現在食料支援の活動をしているが、子ども関係の課と連携していただくと、学校の先生から自分たちに、支援が必要な子の情報が来るため、そういった仕組みができると良いと思う。

委員：統合の話については、各台で取り組み具合に差がある。特に原山台は小学校が廃校になるため、子供達が寂しく感じると思う。ハード面については、通学路を明確に行政・民間・自治会が一体となって協議する必要があると思う。また、原山台小学校の体育館が避難所に設定されているが、廃校になるとどうなるのか。こういった点を踏まえ、団地全体での方針を来年度中に決める必要があると思う。その際は、地域住民の声もぜひ取り入れていただきたい。

会長：瀬戸市では、にじの丘学園の事例があるので、そちらで得た知見を菱野団地でも取り入れて、次のモデルケースとして市全体に広がっていくと良いと思う。

4. 再生計画の目標達成状況（資料3）

○事務局からの資料説明

・資料3を用いて、菱野団地再生計画に位置づけた成果指標・目標値の達成状況について説明した。

○質問・意見交換等

委員：原山台の人口が増加傾向にあるが、現在宅地分譲が進んでいること、県営住宅については、現在入居している方の住み替えがコンセプトと聞いているが、10数年前の計画であり、当時の世帯数と相違があるにも関わらず、当初の計画戸数通りで建替えが進んでいる。今後新築予定の県営住宅には新規入居を促すのか。今後予定している八幡台の建替えでも同様の問題が生まれると思うので、現状に合わせて、建替え計画を見直していただきたい。

会長：人口問題が大事な局面を迎えており、県営住宅を取り巻く地域の問題が全国的に起こっている。大学生の斡旋やひとり親世帯のシェアハウスを設ける等新たな取組もみられるため、そういった事も含め検討いただければと思う。

委員：現在まごころは、居住支援法人となっており、社協や一人暮らし高齢者から相談があるが、団地の高層住宅の空き部屋を一時入居場所として活用できないかと考えている。

会長：本日内閣府の方も参加されているが、愛知県に限らず全国的に問題になっているため、各地の事例等照会いただきながら、良い方向に進んでいけばと思う。

5. 「名城大学鈴木研究室研究成果報告

-世帯マイクロシミュレーションを用いた小学校廃校跡地の活用に関する研究-

○鈴木委員からの資料説明

・世帯マイクロシミュレーションを用いた小学校廃校跡地の活用に関する研究について説明がなされた。

6. 社会資本総合整備計画 中間評価の結果について（資料4）

○事務局からの資料説明

- ・資料4を用いて、社会資本総合整備計画の中間評価の結果について説明した。

8. その他

- 委員：現在、原山台の外国人支援に携わっており、年末にイベントを実施したが、地域の日本人住民にはあまり参加していただけなかった。みんなの会も人手不足が課題であると話があったが、人口減少が進んでおり、また他の地域の催しがある中で、新しい取組を立ち上げるのはなかなか難しいと思う。その為、既に団地内で行われている様々な取組に出向いて、そこと連携していくことが、人手不足の解消につながると思う。まずは地域の取組を充実させていくことで、行政との連携も進んでいくのではないかと。
- また今後、団地の多文化共生を進めていくためにも、まずはこの協議会に外国人の方にご参加いただけると良いと思う。
- 委員：みんなの会としても、現在、3台で連携が出来るように動き始めている。自身も自治会活動に携わるようになって、各台で同じような内容の取組が行われていると感じている。そのため、各台の特に力を入れている取組に他の台の取組が共同していくことで、各台の人手不足を補い助け合うことで、より活発に各取組を進めていけると思う。
- 会長：本協議会はみんなで作っていき、事がコンセプトとなっている。今後、学校の統廃合を控えており、地域の様々な課題に向き合っていくことになるが、本日もご参加いただいている皆様に、幅広く情報共有やご意見をいただくことで、前向きに進めていけるとよいと思う。

○今後の予定

- ・第7回協議会は、令和6年度末に開催する予定であるが、今後取り組みが進む中で協議会の開催が必要ということになれば是非検討したい。

以上